

## テレビ視聴時間と慢性閉塞性肺疾患（COPD）死亡との関連：JACC Study

鶴川重和<sup>1</sup>、玉腰暁子<sup>1</sup>、八谷寛<sup>2</sup>、山岸良匡<sup>3</sup>、安藤昌彦<sup>4</sup>、磯博康<sup>5</sup>

<sup>1</sup>北海道大学大学院医学研究科社会医学講座公衆衛生学分野、<sup>2</sup>藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学講座、<sup>3</sup>筑波大学医学医療系社会健康医学研究室、<sup>4</sup>名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター、<sup>5</sup>大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学講座

**【背景】** テレビ（TV）視聴は、座位活動の代表的なものである。長い座位時間は、心血管疾患や糖尿病、およびいくつかのがんのリスク要因とされる。本研究の目的は、TV視聴時間と慢性閉塞性肺疾患（COPD）死亡との関連を明らかにすることである。

**【方法】** がん、脳卒中、心筋梗塞、結核の既往歴のない40から79歳の76,688(男性33,414、女性43,274)人を本研究の対象者とした。テレビ視聴時間とCOPD死亡との関連を、男女別にCox比例ハザードモデルによりハザード比と95%信頼区間（95%CI）を算出した。

**【結果】** 追跡期間（中央値：19.4年）のうち278（男性244、女性34）名がCOPDにより死亡した。男性では、2時間未満のテレビ視聴者と比較して4時間以上では1.63（95%CI: 1.04-2.55）倍と1日4時間以上のテレビ視聴者においてCOPD死亡のハザード比が有意に高かった。女性ではテレビ視聴時間とCOPD死亡との間には有意な関連はなかった。

**【結論】** 男性において、TV視聴のような座位行動を避ける事で、COPDによる死亡を予防できる可能性が示唆された。